

『日常の療養』に関するめざす姿

医療・介護関係者協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療・介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた生活ができるようにする。

②事業所等、限られた資源の中であっても、連携の仕組みや方策によって解決できているか？

a. 課題 (目指す姿と現状のギャップ)	b. 課題が生じている 背景や原因	c. 解決すべき課題 (課題の具体化)	d. 対策の対象の 具体化	e. 具体策
<ul style="list-style-type: none"> ・MCSがうまく活用されていない。 ・MCS等の活用は事業所により偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーでない ・全ての事業所でMCS導入ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MCSの使い方や活用方法に関する知識が不十分であること。 ・MCSの具多的な活用でのメリットが周知されていない。 ・事業所内でも人員が変わり、MCSという連携ツールを知らないのではないか、または改めて考えてもらう機会がないのではないか。 ・コロナ禍でタブレット導入等は変化が出て来ると思うので現状把握が再度必要。 ・情報共有すべき対象者のICT技術が不足している ・横のつながりが薄く、広められない。 ・MCS活用の環境が全事業所で整っていない。 ・MCSの使い方のイメージが介護系事業所でできにくい。 ・MCS活用は記録の2重化の側面があり手間が大きい。 ・使用についての心理的抵抗感軽減として、WEB会議のツールも多種多様なため、MCSでのWEB会議システムがあれば、設定や機器環境の負担が少なく感じるのでと思います。 ・事業所内のタブレット等への導入が難しく自席の端末では見る機会が少ない。 ・MCSのケース共有が個人事業主化する傾向にある(か?)。 	医療・介護共通	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての事業所がMCSの活用方法を理解できる状況を作る。 ・MCS利用開始手続きの明確化 ・ICT技術を上げるための施策 ・事業所単体のよびかけではなく、法人等の母体への呼びかけ。 ・未加入の事業者へMCSという連携ツールの広報(チラシなど)をすることで改めて周知してもらう。 ・事業所での端末利用の促進施策 ・ICT整備の補助金活用の促進をする(スマホで入力等) ・MCSケース共有は事業所責任で管理される仕組みを徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ・各職種の理解不足により必ずしも連携ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者ひとりひとりがお互いを理解しようとす姿勢が足りていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各職種がそれぞれの職種に関する知識や情報が不十分であること。 ・相手が何の情報が必要としているかを理解していない。 ・医療介護の専門性を理解するには時間がかかる。 ・まだ顔の見える関係が築けていない。 ・担当利用者が使っているサービス事業所としか関係が築けておらず、新たな地域の職種との連携構築には時間や手間もかかる。 ・連携促進させるための定例会議などの運営が定着していない(運営されていない) ・ケアマネの資質に左右される部分があるように感じる。 ・直接関わられる機会がコロナ禍の影響もあり少ないこと。 	医療・介護共通	<ul style="list-style-type: none"> ・直接会う機会がなくても関わっていける機会を設ける。 ・すべての事業者が各職種の専門性や出来ること、出来ないことを知る機会を作ること。 ・コミュニケーションをとってケースバイケースを経験し知識を深めていく。 ・初めての事業所との関係構築でも、一定の水準で連携が取れる工夫や積極性が必要。 ・生活という点から考えると理解がお互い容易になると期待する。 ・現任者でも知識のアップデートが必要 ・地域ケア会議の活用をする。 ・地域ケア会議を各包括センターが積極的に運営する ・地域ネットワーク(連絡会)を各包括センターが運営する。 ・各事業所での新任者や入れ替わりの職員
			CM	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネが各職種の専門性活かしたり苦手とする部分をフォローできるようそれらを知る機会を作る。